

まんなかビジョン討論会（四日市会場）開催結果の概要

1．開催日時・会場

- ・ 日時 平成 14 年 11 月 16 日（土）13：30～15：30、晴れ
- ・ 会場 じばさん三重 5 階大研修室

2．出演者構成

- ・ コーディネーター
渡辺 悌爾 （三重大学人文学部長）
- ・ 発言者
稲毛由美子 （四日市市在住）
岡村 俊宏 （四日市市在住）
川谷 光代 （鈴鹿市在住）
小寺 徹也 （津市在住）
善家 彰則 （四日市市在住）
豊田由紀美 （亀山市在住）
西羽 晃 （桑名市在住）
坂野 栄一 （桑名市在住）
矢野 晶久 （三重郡朝日町在住）
- ・ 行政側出演者
元野 一生 （中部地方整備局企画部技術企画官）
開口 進 （中部運輸局企画振興部次長）
鈴木 周作 （三重県北勢県民局長）
- ・ 聴講者数
83 名（男性 78 名、女性 5 名）
- ・ 会場風景



3．主な発言要旨

[私の考える地域づくりに関して]

- ・ 慢性的な渋滞をしている国道1号線を避けようと、生活道路に流入してくる自動車が多い。生活道路は、自動車や歩行者・自転車が共に混在しており大変危険な状態にある。道路は生活に密着しているため、安全な道路を整備することが急務である。
- ・ 老人会や民生委員などを通じて地域の子どもたちへの教育活動を進めている。地域全体で話し合い、語り合っていけるような活動が地域活性化につながっていくと思う。
- ・ 鈴鹿市の市町村合併を考えると、亀山市や関町が親しみ深い地域といえる。地域づくりには、市民の意見が反映されるような仕組みが必要である。
- ・ 市民の賛成派の声はなかなか表には出てこない。良い事業に対しては、市民の賛成意見を積み上げていくような活動をしていきたい。
- ・ 四日市市では交通渋滞が産業発展のネックになっている。四日市や名古屋は日本の真ん中で有利な立地環境にある。経済特区などを設けて、企業の自助努力ではできないところを行政としてサポートして欲しい。
- ・ 道路に関して住民にはその土地土地で、切実な声が聞こえてくる。例えば、南紀では道を「命の道」といい、北勢では「渋滞の激しい道」という。地域の実状を把握した上で道路整備を決定していただきたい。その際、市町村の行政界を越えて考えていくことが大切である。
- ・ 歩いて暮らせるまちが私の考える地域づくりである。江戸時代までは歩いて暮らしをしていたし、地域独自の産物や文化や言葉など人間らしい生活があった。歴史から学ぶといった観点が大事ではないかと思う。
- ・ 東京と横浜といった関係のように、四日市は名古屋を補完する50万人～70万人都市があってもいいのではないか。そうすることで中部地域は活性化するのではないかな。
- ・ 三重県は全国的に知名度が低く、地域の個性が足りないように感じている。個性的なまちづくりが必要だ。

[まんなかビジョンへの期待]

- ・ 限られた資源をどういう方向に結集していくかが大事。歴史的な風土がある。よその地域にない特色を見つけて、日本や世界に貢献していかなければいけない。
- ・ 住民は遠慮なく意見を行政に言っていくべきだ。住民は「私は関係ないから知らない」といったところを少なくしていかなければいけない。
- ・ 歩いて暮らせる街として、公共交通機関の充実がどうしても必要となってくる。既存の公共交通機関を廃止することなく、利用促進の仕掛けが大事である。
- ・ ディスプレイ技術やプラスチック技術などの先端産業を地理的に有利なこの地域に集中すべきである。そのためには更なる交通基盤の整備が重要となってくる。
- ・ 中部地域はあらゆる人々が住みやすく、交通の便のよい地域になればいいと思う。

[中部の目指すべき方向（7つの目標）のうち、三重県北部・中部地域や中部地域全体にとって特に重要な目標（意向アンケート結果*を受けて）] *意向アンケートの結果は末尾掲載

- ・ 会場での意向アンケート結果を見ると、男性ばかりの意見が反映されているので、産業についての票が多く、暮らしや生活に関する目標への票が少ないと感じた。聴講者

が男性と女性が半々になれば、なお良いのではないか。また、若い人たちの意見も必要だ。

- ・ 7つの目標の中には、「子どもたちのために」「伊勢湾のために」「ハブ空港」といった観点に欠けているように思える。(聴講者)

[その他、まんなかビジョンについて]

- ・ この地域に住んでいても、中部でまんなかビジョンを策定していること自体知らなかった。いい計画をしていると思うので、一般市民へのPR活動に更に力を入れていていただきたい。(聴講者)
- ・ このような討論会を屋外で行ったり、女性や若者が集まれる仕組みをつくることが大事であると感じた。

4. 意向アンケート結果

会場にお越しいただいた聴講者やコーディネーター、発言者の方に対し「意向アンケート」を実施し、その場で、「中部の目指すべき方向(7つの目標)」について、三重県北部・中部地域と中部地域全体のそれぞれの観点から最も重要と思われる項目について尋ね結果を発表した。結果は以下の通りである。

- ・ 三重県北部・中部地域では、「モノづくりなど産業の国際競争力の強化」が最も多く、全体の3分の1(33票)を占め、次いで「東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」が続いた。一方で、「世界都市を目指した名古屋の魅力向上と拠点都市のアップグレード」と「東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」は少ない票となっている。
- ・ 一方、中部地域全体は三重県北部・中部地域と同様、「モノづくりなど産業の国際競争力の強化」の回答が最も多い。しかし、「日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」では、三重県北部・中部地域に比べ多くの回答が得られ、また、「東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」は、三重県北部・中部地域に比べ少ない回答となっている。

〔 意向アンケート得票数 〕

